

2017年6月

「サポートV」お礼状

あしなが育英会

近畿労働金庫の社会貢献定期預金「サポートV」の預金者の皆さまと、近畿労働金庫の役職員の皆さまには、東日本大震災遺児支援にご理解を賜りまして、心より御礼申しあげます。ご寄付は東日本大震災で親を亡くした津波遺児の心のケアなどの支援に使っています。

昨年、仙台、石巻、陸前高田のレインボーハウスを中心に、各地で開催した心のケアプログラムや行事などに参加した人数は、のべで遺児が861人、保護者などが430人、合計1,291人でした。行事数は161回でした（2016年1月～12月）。昨年は年代別の参加がしやすいように小中学生のワンデイプログラム（日帰りのつどい）や宿泊のつどい、中高生のつどい、大学・社会人のつどいを開催しました。また、全国に移住、避難している遺児を対象に全国震災遺児のつどいを開催しました。さらに、レインボーハウスに來れない家庭のうち131軒に家庭訪問を実施しました。それらの活動を通じて、震災から数年たった今だから、震災当時の様子や現在の気持ちを話せるようになった方が増えたように感じられました。

阪神大震災遺児家庭とは、1月に神戸レインボーハウスを、3月に東北のレインボーハウスをお互いに訪問して交流を深めました。東日本大震災遺児が今の気持ちを話し、阪神大震災遺児が東北の遺児の気持ちを受け止め、22年間の経験を伝える交流になりました。

遺児は親を亡くした悲しみはもとより、喪失感、無気力感、孤立感などを今でも心に抱えています。皆さまの暖かいご支援は、そんな遺児を暖かく見守り、時には背中を押して下さっています。また、私たちスタッフやボランティアにとっても大きな力になっています。皆さまのご支援に感謝申し上げますとともに、これからも遺児のために全力を尽くしますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。